

# 山行報告書

作成: 2012年1月14日

愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	赤岳(八ヶ岳)	目的[方法]	雪山を楽しむ
期間	1月9日	形態	日帰り
参加人数	2人		

## 行動記録:

◇ 1/9(月) 曇のち晴

美濃戸(0700) -- 2:30 -- 行者小屋(0930,0940) -- 2:00 -- 赤岳中岳分岐点(1140) -- 0:40 -- 赤岳山頂(1220,1240) -- 1:20 -- 行者小屋(1400) -- 1:50 -- 美濃戸(1550)

## 概念図:



## 日誌:

美濃戸(やまのこ村)に前夜入りし、車中泊。9日は7時に出発した。天気は思っていたより良くはなく、ガスが出ている中、南沢を行者小屋に向かって歩き出す。雪は例年に比べ少ないらしい。しかし、3分の1程過ぎた辺りから登山道は雪道に変わる。沢の水も凍り所々その凍った沢の上を歩く。辺りは雪景色となり、ピリツとした空気の中を快調に進むが、依然ガスは晴れない。

行者小屋に到着。ここでアイゼンを装着し、ここからの行程に備え装備を整える。ここから見えるはずの八ヶ岳連峰は雲に閉ざされており全く見る事ができない。この時点で稜線の風が強いことが予想できたので、当初の予定の地蔵尾根を上げるのではなく、文三郎尾根を上げることにする。階段の登りに差し掛かったところで徐々に降りてくる人とすれ違うようになる。聞くと、稜線はかなりの風が吹いていると言う。見上げると、雲は幾分か薄らいでいるようだが、雲の流れはかなり早い。やはり上空はかなりの風が吹いているようだ。稜線に近付くにつれ風が強まる。しかし、かなりガスはなくなってきて、一瞬一瞬ではあるが展望が開けるようになってくる。行者小屋の時点では「今日は展望は期待できない」と思っていたが、「もしかしたら…」と期待が膨らむ。山頂に到着したのはちょうど昼頃、風は強いが東側の展望が開ける。しばらく風をしのげる場所で休息した後、下山を開始する。それからは展望がさらに良くなり、横岳から硫黄岳を望むことができ、阿弥陀岳も顔を出すようになる。行者小屋に到着する頃には、八ヶ岳連峰を見渡すことができるまでになる。そして、予定から1時間弱遅れではあるが美濃戸に無事到着する。

## 感想:

赤岳日帰りって大丈夫かなと思ってたけど、案外余裕ありました。8日は風もなく天気も最高だったみたいですね。9日は午前中は完全にガスっていて、下山してくる人の「昨日は良かったよ」の聲がとても羨ましく思えました。しかし、昼からは天気が回復してくれて、徐々に展望が開けていく喜びは大きいものでした。

これからも色々経験を積んで、スキルアップを図りたいと思います。

参加者名	I. K, I. T
------	------------